

# 会 議 記 録

会議名称	令和6年度第2回通学路安全対策推進懇話会
日時	令和6年10月25日（金） 午前10時45分～午前11時45分
場所	秦野市役所西庁舎3階大会議室
出席者	別紙「出席者一覧」のとおり
次第	別紙「次第」のとおり

会議の内容は、次のとおりです。

事務局	<開会>
事務局	<議題1 令和6年度通学路整備要望に対する対策案について> ～資料1-1、1-2、別紙1について説明～
宇佐美委員	カラー舗装やイメージハンプはとても良いと思う。 前回ハンプの話差したが、騒音問題があつて対応が難しいということだったが、こういったイメージハンプをやらせるとドライバーも気になると思う。 今後ともこういった対応策を進めてほしい。
建設管理課	道路を横断させるカラー舗装は、北地区や鶴巻地区でも普及させている。
事務局	予算的なものだけではなく基準が満たないため実施できないところについては代替案を示しているが、できるだけ次善の策として対応していきたいと思っている。
宇佐美委員	カラー舗装は全国的にも効果があるというデータが上がっている。ぜひ今後の対応をお願いしたい。
吉田委員（自治会）	今回も自治会の方に声かけていただいて現場を細かくチェックしていただいたことはとてもありがたいと思っている。 次の議題で話があると思うが、今起きている事故がどんな状況で、どういう場所でどういうときに起きているかを調査してほしい。

意外と信号機が設置されていて横断歩道が設置されているような場所で事故が起きているのではと思う。

そういったところも具体的な数字をチェックして、どこでどういう状況でどんなことをして、事故が起きたかというところまで掘り下げて対策をしないと、大人目線を見た危険箇所全部に対策をすることは不可能だと思う。今起きていることを精査してほしい。

また、横断歩道などの設置基準があるのは理解するが、それによって被害を受けるような人たちのためになにができるということを考えて対応してほしい。

事務局

市役所に横断歩道の設置をお願いしても警察のほうで設置基準に満たないということで終わってしまうというご意見も聞いている。

市の判断だけではできない部分もあるため、そういった回答は間違いではないが、代替案を検討するなど、必要に応じて対応していきたい。

また、事故については現段階でできることを議題2で示している。次の議題の中でどこまで把握できるのかも含めて検討していきたい。

吉田委員（自治会）

学校の児童生徒が事故にあってしまったら、学校で事故についてしっかりと確認する必要があると思う。

吉田委員（学校）

事故についての聞き取りについては、子ども自身がしっかりと説明できるかという問題もある。特に1年生は難しい場合も多くあると思う。小学生になって自分たちで登下校しなくてはならないため交通安全指導は必要。

一方で現在は保育園等が多く歩いて帰る子供たちが少ない。園で散歩のように外を歩くこともあると思うが、園等での交通安全教育も必要だと思う。道路に慣れれば仮に事故にあっても説明できることも増えてくると思う。

事務局

学校事故については学校教育課へ報告が上がってくる。プライベートであっても救急車を呼ぶような事故について把握した場合は、学校から報告が上がってくる。場合によっては、学校

吉田委員（自治会）

を通じて詳細な情報を把握したりすることも可能。

通学路は単純に登下校で歩くだけでなく子供たちにとってはいろいろなことをする場所であり、そういった見方をしないといけないと思う。

事務局

<議題2 児童生徒の交通事故発生状況について>

～資料2について説明～

吉田委員（自治会）

現在は狭い道の安全対策を講じていただいているが、意外と子供たちはそういった場所ですっかりと歩いている。

逆に交差点のほうが、ふざけていたり道路の向こう側の友達と会話したりしているのをよく目にする。

そういったところも考え、起きている事故を減らしていかなければならないと思う。この辺については環境整備に力点が置かれている。

事務局

先ほど話があった保育園の送り迎え等子供たちが歩くことが少なくなったことについて、資料2で示した内容にも関係してくると思う。

また、普段から家庭で保護者が子供に対して教える、子どもたちが危険等について認識することも必要だと思う。

座長の鈴木委員もよくおっしゃっているが、子供に実際に身を守るようなことをちゃんと教え込まなければならない。例えばガードレールでがっちり囲ったところだけを歩くと、それがなくなったところだとどうやって安全に歩けばよいかわからなくなる。

ハード的な整備と子供たちがどういう風に考えていけるかという安全教育のソフト面、双方同時に進めていく必要があると考えている。

吉田委員（自治会）

小学校1年生に対する見守り活動を、学校からの要請を受けて自治会で対応できるところは対応しているが、人手不足である。特に、帰りの時間はほとんど見守りができていないと思う。

自治会でもそういった話は上がっているが、人が足りず対応できていない状況にある。

事務局	<p>自治会の皆様にご協力いただいていることに対しては、とてもありがたいが、やはりそういったことも含めて自治会の方をお願いするのも限度があると思う。市民の皆様に普段から気にしてもらえよう体制が取れたらと思っている。</p>
吉田委員（自治会）	<p>子供が多くいる自治会とそうでない自治会があるため、一律で実施するのはなかなか難しいところもあるが、積極的にやっている自治会もあるため、特に4月、5月はもっと見守りをしていかなければならないと感じている。</p>
事務局	<p>&lt;議題3 その他&gt;</p>
	<p>～資料3について説明～</p>
地域安全課	<p>ヘルメットの着用率について、秦野駅北口自転車駐輪場で測定したところ、4月上旬は約6%でしたが、10月上旬は約9%となり、少し上昇している。</p> <p>市内全体としてどうかということもあるため、イオンや他交差点等で測定調査した結果、4か所平均で4月は約10%、10月は約13%と少しずつ上がっている。</p> <p>ヘルメット補助金についても9月末時点で7割ほど達成しており、着用への意識も高くなってきている。</p>
事務局	<p>&lt;議題3 その他&gt;</p>
	<p>～見守りサポーターについて説明～</p>
吉田委員（自治会）	<p>大根地区では、防犯交通の黄色ベストを着用して活動しているため、申込みしていないと思う。</p>
事務局	<p>地区によっては、個別に見守りグッズ等を購入して実施頂いて重ねて見守りサポーターに登録いただいている方もいる。どうしても人数を増やさなければならないということではないが、こういったこともある旨、周知していただきたい。</p>
	<p>～意見等なし～</p>

事務局

| <閉会>